

さみしい夜の句会報 第96号 (2022. 12. 18-2022. 12. 25)

- ◆ 参加者: こぼやし南子(不眠症の猫)、山田真佑明、しまねくん、海馬、水の眠り、桔梗箋、西脇祥貴、蔭一郎、石川聡、雲上晴也、菊池洋勝、日月星香、電車侍、石原とつき、元さん、たろりずむ、ゆりのはなこ、霧雨魔理沙、鴨川ねぎ、DS、おかもとかも、宮坂変哲、気まぐれ俺んちロード、しろとも、あ、流天紳音(るてしお)、花野玖井本和彰、小松 百合華、susie、涼閑、太代祐一、みさきゆう、お気楽草紙、マ、片羽Eiri、雲雀、まつりへきん、岡村知昭、金瀬蓮雄、雪上牡丹餅、とるばじる、徳道かつみ、みさきゆう、白水ま衣、さし、高良俊礼、森内詩紋、藤井皐、西沢葉火、月硝子、Pulsar、のこりか庵、hymtoppa、小沢史、こっちゃん、雷 (らじ)、Hira、むくみんママ、えのきさん、東ころろ、天やん、もゆら、donkey、わたしのみらい、夜間戦闘、あどうま、ぼっぽ、手羽たまご、まきぎし、とわさき芽ぐみ、かのん、輪井ゆう、maria、抹茶金魚、檜崎進弘、恐山にやる、ひなとと、木野清瀬、Tanako、月夜与生(八〇名)

◆ 7・7詩、5・7・5詩

- 稟議書の夏のページが開かない 西脇祥貴
駄馬の背で赤鼻の中島みゆき 西脇祥貴
木枯らしのQいろとりどりの遊具 海馬
美味しいパン美味しいパンと攻めてくる 海馬
ご当地ソングのチープ・パープル 海馬
極月や帯番組のコマーシャル 菊池洋勝
余白だけ適当に食べ眠る漠 しろとも
せがまれて霧の缶詰あけている 小沢史
白ボインセチア殺れるものなら殺れ 小沢史
通勤の道に落ちている手裏剣 太代祐一

北国の季語を選んで開ける窓 とわさき芽ぐみ
愛国心ドライフルーツ食い過ぎて 海馬

近すぎて詣でた事のない神社 雷

画質良し青空好児だけがいる 藤井阜

孤独死のノンフィクションや畳替ふ 菊池洋勝

列の中ぼつねんとして冬日和 花野玖

ときどきは少女にもどりセロリ噛む syuyu

藤棚を背なかに貼ってくれないか 太代祐一

ばあの音が出せたらきつと吉が出る 雪上牡丹餅

かわいるかはひらがなの亜種らしい 石原とつき

着ぶくれてなかなか水になれませぬ 小沢史

ブロッコリー立ててテレビは映らない しまねこくん

てんかふ、雑炊、蝶番、それぞれ発情 石原とつき

妹と回り道のことはず 石川聡

グレゴリー寒さむざむざ虫でした 石川聡

放送禁止用語に曇る鏡 太代祐一

脱ぐものがまだありますよ冬至風呂 syuyu

焼き立てのシルバー人材たち悪し 藤井阜

片眉を生クリームに置き換える おかもとかも

ヒューゴー！つて北風誰を呼んでるの？ 森内詩紋

メリークリスマス（うなぎパウダー付き） 白水ま衣

椎茸に褒められてからやつて来る 岡村知昭

水槽で枯葉を飼っている彼女 蔭一郎

君のショールを掛けられ溶けてゐる途中 syuyu

風邪薬の消費期限へ貼る値札 菊池洋勝

待ちきれず触ってしまう冬の月 東こころ

伸ばす手は宙を泳いで溺死する こばやし南子

山の端を高く離れて冬の星 山田真佐明

蒼くて熱いカート・コバーン星になり 水の眠り

二人だけそのクリスマス夢の中 黎明

クリスマスひとの時計が零時指し 雲上晴也
星空よりロマンチックな聖樹 日月星香
オルガンの 聖夜の歌や 凍てし天 電車侍
クリぼつちいのちの電話繋がらず ゆりのはなこ
クリぼつち 良いさ私にや 本がある 霧雨魔理沙
クリスマス泣ける話のコンテスト たろりずむ
猫又に化けて二匹で酌しよう 鴨川ねぎ
21世紀知る置き配はサンタの発明 DSG
思い出に背を向けている缶ピース 宮坂変哲
戦メリの語を阿佐ヶ谷で耳にする あ
寒風のあまりの寒さ笑み浮かぶ 流天
無縁坂少し切ない夢ばかり 涼閑
ジョジョ立ちを試す深夜の車窓かな お気楽草紙
大好きで大嫌いだよ 12月 片羽雲雀
猛吹雪視野には全裸ロカビリー まつりぺきん
ぼた餅の廃棄を米国に詫びる 金瀬達雄
カツカレー強者ばかりが勝つ勿れ 高良俊礼
台本は丸めてポケットに捨てる 西沢葉火
湯ざめするまで失楽のキスをする 月硝子
学校の渡り廊下は失語症 Ryu_sen
大深度地下に猫の巢冬至の日 のこりか庵
腸詰のやうな電車に乗り冬至 hyutoppa
ぬるぬると手から流れる猫 こっちゃん
マヌカハニーとピンク・フロイドと朝水 Hina
子の寝息じつと縄見し短夜かな 天やん
鍋なべのお終いは美味麺か米 donkey
こっくりさんあの子の未来は案山子なの M&A*STI
白葱の 色香にまよい 二本買う かのおん
立ちつくすトウメイにされトがる声 輪井ゆう
冬銀河なみだ流るる果てにあな mari.a
損をしてまで踊って夕日 抹茶金魚

冬至という揺れないものの腹式呼吸 月波与生

◆ 7・7、5・7・5以外の短詩

オパールと言われ怒濤と押し寄せる象とおばさんたちとき
らめき 手羽たまこ

トナカイとサンタが駆ける鈴の音は吐息で曇るガラスの向
こう 元さん

さみしさが溶けだすように湯は冷めて温めボタン押したっ
て一人 小松 百公昇華

夜の灯を両手で掬い病室に今ひとたびの光の世界 みさき
ゆう

アイコンも 目も即変わってく関係の可視化ゆがんだ鏡
みさきゆう

必要なのは君だけでなのに手を離すことではか守れなかつ
た みさきゆう

へそで沸き 闇夜溢れて われかえるわれにとつとい 卑怯
千万 ㄨ

傷口をなぞる指先冷たくて眉根を寄せるきみの横顔 とる
ぼどーる

ダメだよと禁止されてたこと全部やらかしながら大人にな
った 鈴音

冬の野に黒く佇む鳳仙花揺さぶられれば弾ける言葉 さー
猫との暮らしも人との暮らしも一つの幸せな奇跡 むくみ

んママ
シガレット煙と吐息混じる雪黒服包む灰色の街 えのきさ

ん
高く傘掲げて歩く冬の夜これでも入らない弱い雨 夜間戦

闘
右耳に葉を落とす五分間ここは遥かな四畳半の海 ぼっぼ

◆ 詩

一人パーティー開始！！

メリークリスマスイブ！！（気まぐれ俺んちロード）

手が届きそうで

届かない

あなたの

大きな背中（もゆら）

スラダン観たの？誰と？

←観たの？誰と？（わたしのみらい）

歌は編む

意味もわからぬ

戯け共

鳴かぬ鳥のが

美しかろう（あどうま）

◆ 作品評から

駄馬の背で赤鼻の中島みゆき 西脇祥貴

〜娑婆駄馬墮。（檀崎進弘）

美味しいパン美味しいパンと攻めてくる 海馬

〜海馬さんの句を日々読んでみると、こういうことだなあ、と思います。まじめとふまじめのあわい。まじめなふりしてふまじめ、まじめにふまじめ。そういう攻め方が結局、デスター唯一の弱点を突くことになるんじゃないかなあ、なんて。ちょっとZAZIさんっぽいですね。。。 （西脇祥貴）

思い出に背を向けている缶ピース 宮坂変哲

〜寂しい。(恐山にやる)

夜の灯を両手で掬い病室に今ひとたびの光の世界 みさき
ゆう

〜世界観が良いですね (刺身をレモン仕立てに)

枯れていくサボテンに遣る水の粒きらわれてると多分知っ
てた 夏野ネコ

〜さすがにこの歳になると「キラワれるのがアタリマエ
好かれるのがキセキ」と思っていてもう毎日が奇跡だ。水
をありがとう。(枯れていくサボテン) (月波与生)

アイコンもIDも即変わってく関係の可視化ゆがんだ鏡
みさきゆう

〜すごく好きです。「ああ、これは」とゆっくりと腑に落
ちて滲みてきました……。 (ひなとと。)

ご当地ソングのチープ・パープル 海馬

〜ありますねこういうこと。海馬さんの膝ポンド!

こないだ地元スーパーで、例のエレベーター・ミュージッ
クっぽいやさしい曲がかかってたんですけど、なんか聞いた
ことあるなー、と思ったら、よりによって Led
Zeppelin "Rock 'n' Roll" でした。(西脇祥貴)

誕生日それはロケットえんぴつね おかもとかも

〜ロケットえんぴつは懐かしいがカラフルになって現在
でも販売している。昨日と変わらないように見えて誕生日
にはしっかり新しい顔になっているのだ。気づけ。(月波与
生)

白ポインセチア殺れるものなら殺れ 小沢史

〜白いポインセチアを買おうと花屋に。赤いポインセチアなら気にも留めない小さな疵が、何故か白には許せない。純潔とか処女性とか、白と云う色への異様な思い。嫌だ嫌だ。わたしの中にもそんなものがあるのか…。くぐもる女の叫びのように読ませていただきました。(木野清瀬)

必要なのは君だけでなのに手を離すことでしか守れなかった みさきゆう

〜好きです(森内詩紋)

グレゴリー寒さむぎむぎ虫でした 石川聡

〜『変身』のかさっとして薄暗い、それでいてちよっと滑稽な感じが素晴らしく表現されていて好きです!

(Tomoko)

干し柿を許そう事なきを得よう 藤井皐

〜イヤな干し柿のことも今日は許そう。クリスマスだもの。年に一度、あなたと『素晴らしき哉、人生!』を観ることにしよう。(月波与生)

湯を沸かす夜が溢れてこないよう 千春

〜それぞれにばらばらにいろいろなことが起きてても夜はいつせいに訪れる。夜を待っていたもので、夜が怖いもの、夜まで生き延びられなかったもの。遠くで誰かが湯を沸かす。(月波与生)